

甲斐市立竜王南小学校 自己評価書

平成29年1月25日（水）作成

校長 「 遠藤 建生 」 記述者 職名（教諭）「 内藤 賢 」

学校教育目標

「楽しい学校（楽校）の創造ーやる気こんげん気ー」

学校経営目標

- ・知・徳・体の調和のとれた「生きる力」をはぐくむ信頼される学校づくり
- ・家庭・地域・社会と交流・協力を図る開かれた学校づくり
- ・学校・家庭・地域が連携した発信する学校づくり
- ・楽しい授業・楽しい学級・楽しい学校を追究した活気ある学校づくり
- ・特色ある教育活動を展開する魅力ある学校づくり

学校経営の基本

- ① 「生きる力」をはぐくむ，教育課程の編成と実施
- ② 「確かな力」をはぐくむ，楽しくわかる授業の創造
- ③ 自他への思いやりや情操を培い，「豊かな心」をはぐくむ，楽しい学校行事と活気ある学校生活の創造
- ④ たくましく生きるための「健康な体」をはぐくみ，健康・安全で楽しい学校生活の創造
- ⑤ 「開かれた信頼される学校づくり」の推進

1 全体評価

自己評価結果は，高い水準にあるといえる。

I「学校教育目標・学校経営について」，II「学校運営について」V「地域との連携について」VI「学校の特色に関して」では，肯定的評価（A・B）で100%となっている。III「学習指導について」，IV「生徒指導について」でも肯定的評価（A・B）で95%を越えている。設問別に見ると，57問中54問が肯定的評価で100%となっている。「ややそうおもわない」Cをつけた設問が3問みられるが，全て回答数1であるので全体的に見て高い自己評価といえる。

また，児童アンケートについては，24問中（勉強時間・就寝時間・読書時間の設問以外）21問で肯定的評価（A・B）が80%以上を占めている。このことから，児童が概ね満足していることがうかがわれる。特に「先生はよく勉強を教えてくださいますか」については98%の最高値を示している。

一方，「家の人と学校の話をしなない」「朝食を食べていない」「夢や希望がない」など，D評価回答の児童が少なからずいることに着目しなければならない。

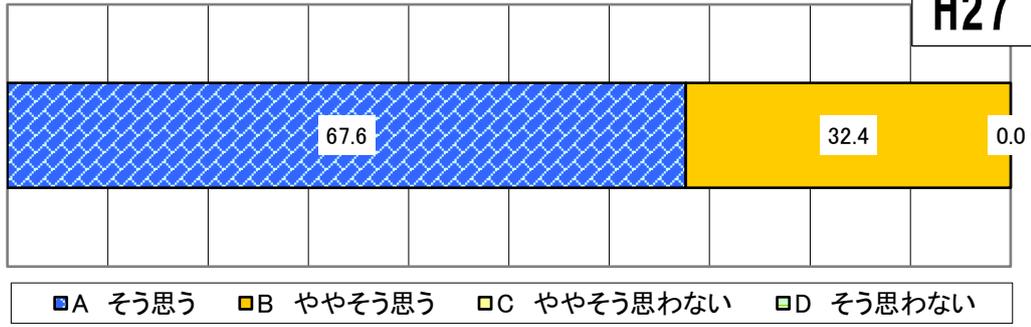
2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況
学校教育目標・学校経営についての自己評価8問全問で肯定的評価（A・B）が100%となった。特に，「4 あなたは，学校の教育計画に基づき，実態に即した教育実践を行っている。」「5 あなたの学校は，P→D→C→Aサイクルで，教育活動が取り組まれている。」については昨年度よりA評価の数値が向上している。地域や児童の実態に即した指導を計画・実践・評価・改善のサイクルで昨年以上に意識して確立できるようになっている結果と思われる。

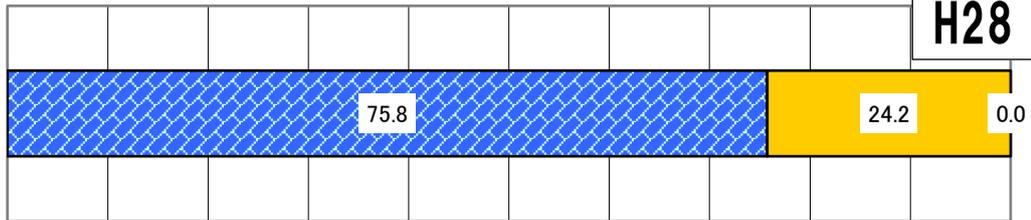
I-4 あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。

H27



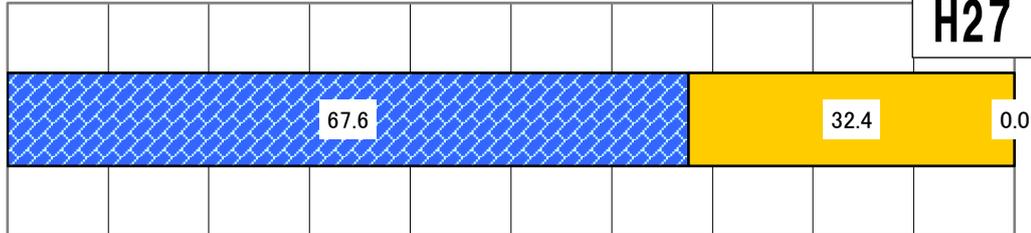
I-4 あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。

H28



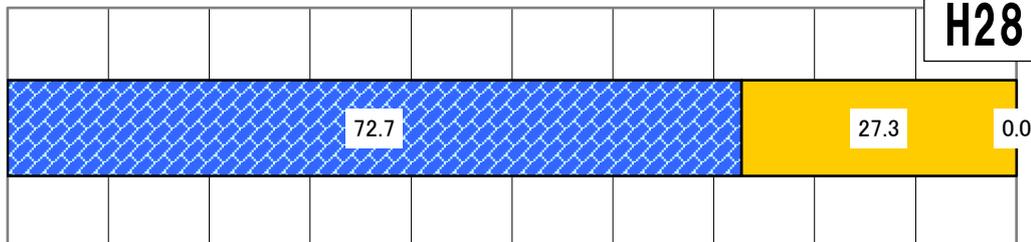
I-5 あなたの学校は、P→D→C→Aサイクルで、教育活動が取り組まれている。

H27



I-5 あなたの学校は、P→D→C→Aサイクルで、教育活動が取り組まれている。

H28



改善策

自己評価から、「6 あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている。」は、ABで100%となっているもののA評価は63.6%となっていて、昨年度とあまり変わらない。日々の教育活動全てでサイクルを常に確立することはなかなか難しいが、次期学習指導要領でも求められるカリキュラムマネジメントを、教職員一人ひとりが確立できるように意識し、努力していくことが必要である。

II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

自己評価では、11問全問で肯定的評価（A・B）が100%となっている。特に、「7 あなたは、職務上「報告、連絡、相談、確認」を行っている。」「9 あなたの学校は、特別支援教育の体制が整い、機能的に行われている。」「11 あなたは、職場における教職員のサービスについて気をつけている。」は、A評価が90%を越えている。一方、「2 あなたは、危機管理（防犯、防災、事件、事故等）マニュアルを理解している。」「5 あなたは、職員会議に、積極的に関わっている。」「8 あなたは、校内研究（研修）に主体的に関わっている。」は、A評価が60%以下となっており、比較的B評価が多い結果になっている。

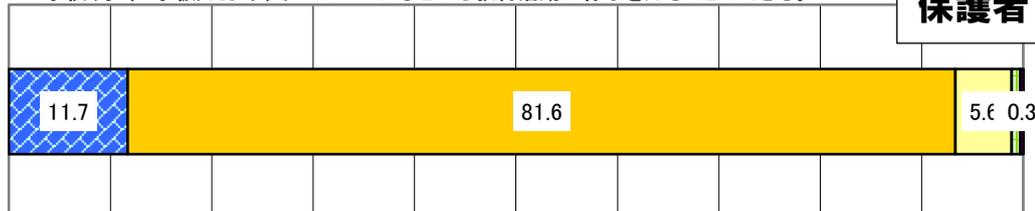
一方、保護者アンケート「1 お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。」「3 学校（学年・学級）だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる。」「5 授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知るよい機会になっている。」の学校運営に関わる質問に対して、肯定的評価がそれぞれ90%を越えており、概ね良好な結果であるといえる。

達成状況

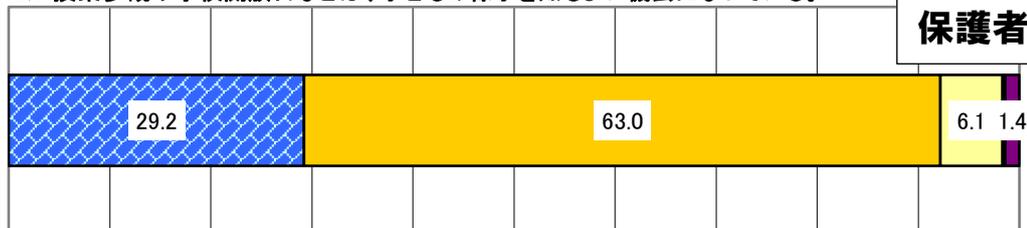
Q1 お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。



Q3 学校（学年・学級）だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる。



Q5 授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知るよい機会になっている。



改善策

自己評価結果から、危機管理等マニュアルは教育課程ファイルにあるので、新任職員も理解できるよう職員会議や校内研究で関連する時に活用するなど、マニュアルを確認する機会を増やしたり、見やすくしたりする工夫をしていく。校内研究では、今年度新組織体制にして具体的な研究グループで主体的な研究を行ってきた。全体会でも主体的な参加ができるよう、話し合いの方法を工夫していく。

Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

自己評価では、10問中8問で肯定的評価（A・B）が100%となっている。残りの問についても95%以上となっていることから、教職員が、学習指導で山梨県の指導重点である「やまなしスタンダード」を意識したり、本校の学力改善の取り組みを意識したりして取り組んでいると思われる。

また、保護者アンケート「11 学校は、熱心に授業に取り組んでいると思う。」では、肯定的評価が84.6%となっている。しかしC評価が9.8%となっていて、これらの結果は昨年度とほぼ同様である。

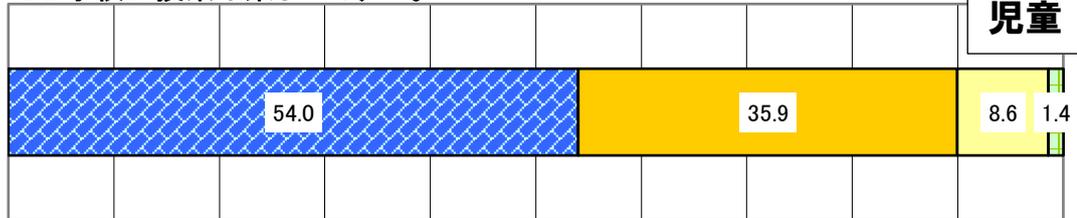
児童アンケートでは、「5 学校の授業は楽しいですか。」の肯定的評価が89.9%、「6 先生はよく勉強を教えてくださいますか。」98%、「国語の授業の内容はわかりますか。」92.3%、「8 算数の授業の内容はわかりますか。」88.3%となっている。

達成状況

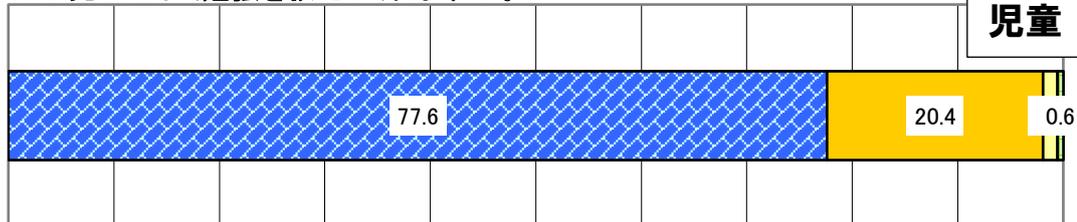
Q11 学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。



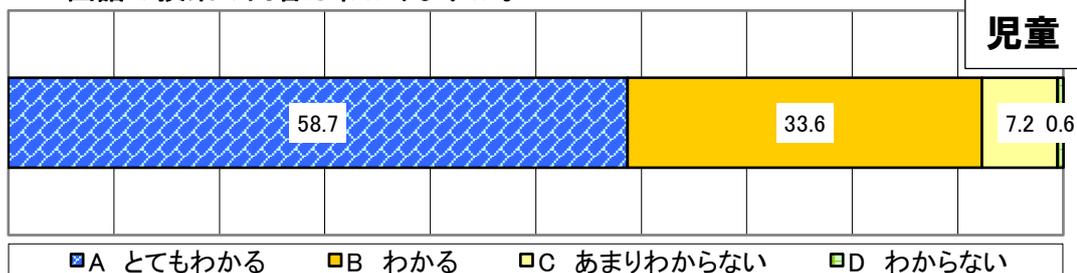
Q5 学校の授業は楽しいですか。

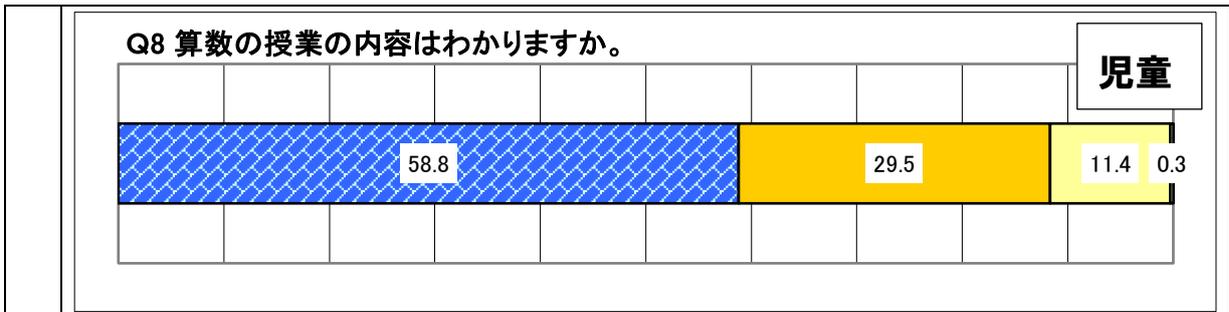


Q6 先生はよく勉強を教えてくださいますか。



Q7 国語の授業の内容はわかりますか。





自己評価結果をうけて、教職員が自信を持ってA回答できるようにするため、校内研究で本校児童の実態に沿った教育課程・授業の改善を図り、教職員全体で共通確認のもと学習指導をさらに向上させていく。カリキュラムマネジメントの意識を高める。また、「授業が(あまり)わからない」と回答した10%前後の児童に対して、今後も授業改善や教職員間の連携、授業規律の徹底を常に意識して行っていく。

IV 生徒指導について (児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて)

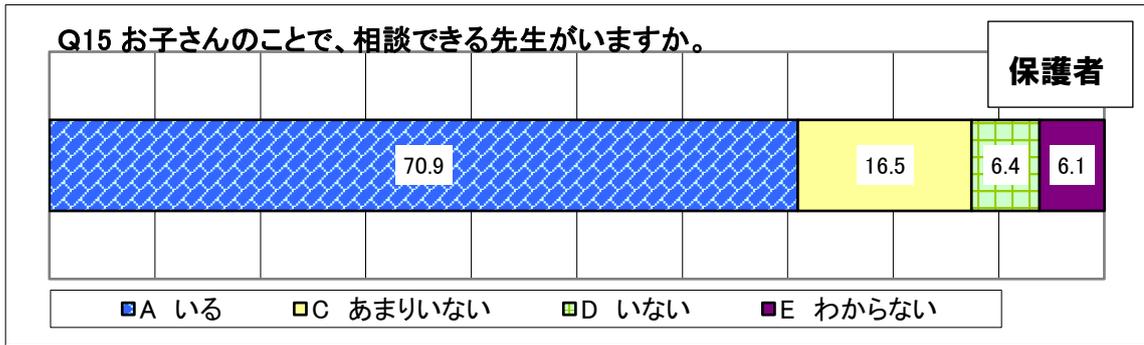
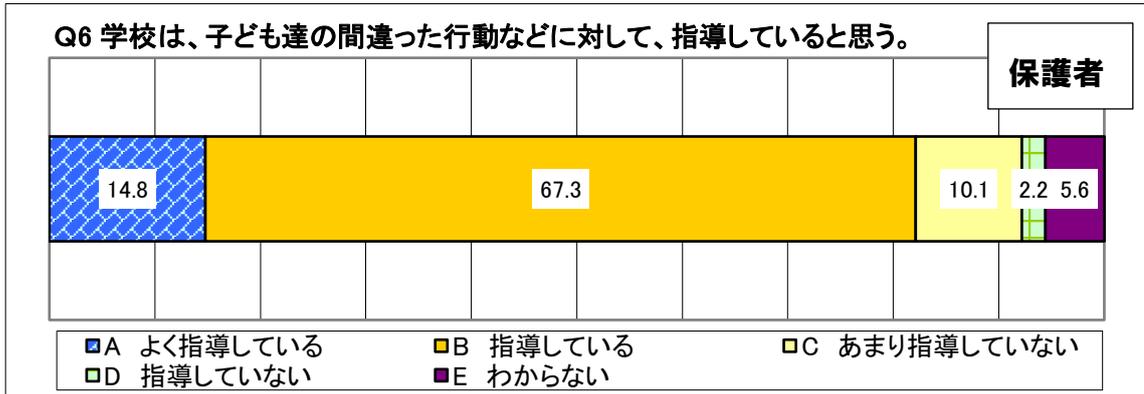
生徒指導についての教職員自己評価の設問8問中、7問で肯定的評価(A・B)が100%となった。「5 あなたの学校は、職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている。」も肯定的評価が96.8%なので、達成できているといえる。

保護者アンケートでは、「6 学校では、子ども達の間違った行動などに対して、指導していると思う。」「15 お子さんのことで、相談できる先生がいますか。」の設問に対して肯定的評価がそれぞれ82.1%、70.9%だった。

児童アンケートでは、「10 こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。」の肯定的評価81.9%、「18 地域の人と出会ったら、あいさつをしていますか。」87.2%、「学校のきまりや約束ごとを守っていますか。」91.2%という結果になった。

「朝ごはんを(あまり)食べない」と答えた児童数は22名ほどいて、昨年度と変わっていない。

達成状況



改善策 学校では支援・指導をしているものの保護者に伝わっていないところもある。児童のよさや事実関係等についての家庭への報告や相談など、日頃からコミュニケーションをより深めていく必要がある。地域でのあいさつなど、地域からの声と児童アンケートの数値で異なるように感じる部分もあるので、生徒指導について教職員全体でもう一度課題を共有し、地域・家庭の協力を得て教職員全体で取り組む。

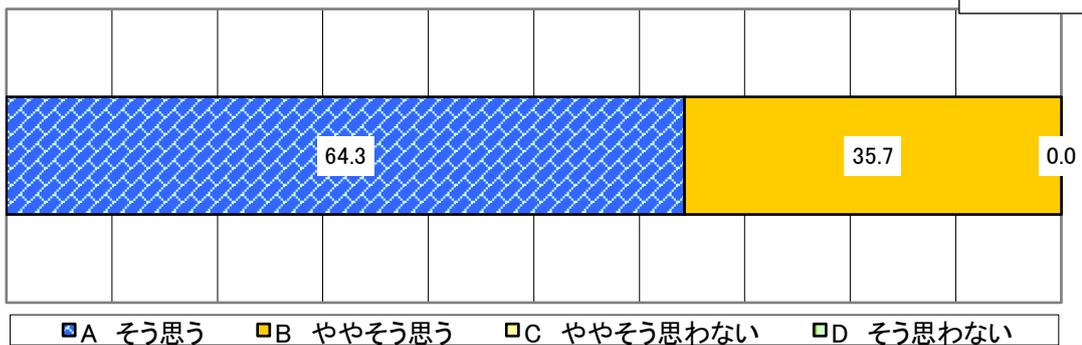
V 地域との連携について

地域との連携についての自己評価9問全てで肯定的評価(A・B)が100%であった。一方、保護者アンケートでは、「23 学校は、保護者・地域との連携に力を入れて取り組んでいると思う。」の肯定的評価が69.3%となっていて、特にA評価は9.2%となっていて、教職員と保護者の意識の違いが感じられる結果となっている。

達成状況

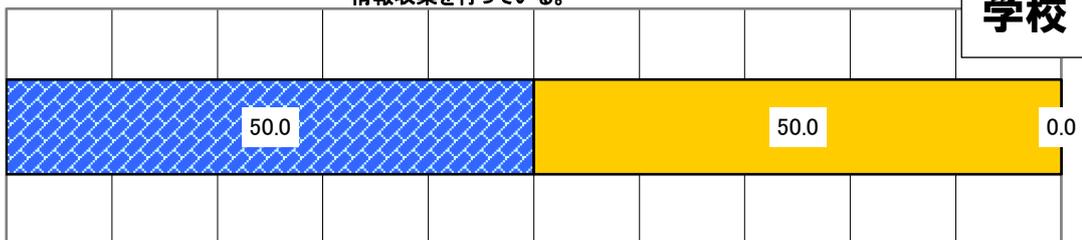
V-1 あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。

学校



V-2 あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。

学校



Q23 学校は、(保護者・地域との連携)に力を入れて取り組んでいると思う。

保護者



改善策 次期学習指導要領では、「地域との連携」が1つのキーワードとなっているので、教育課程に地域の力を活用できるところは積極的に取り入れていく。学校だけでなく、家庭・地域と共に子供たちを教育していくという意識をなお一層持って教育課程を改善していく。学校で行っている地域・家庭との連携が十分に知られていないこともあるので、今後もホームペ

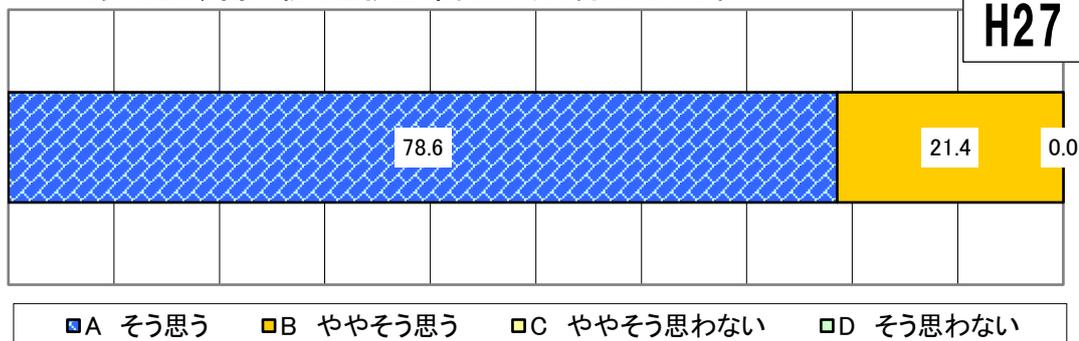
ーじやおたより等で、連携の取り組み情報を発信していく。

VI 学校の特色に関して

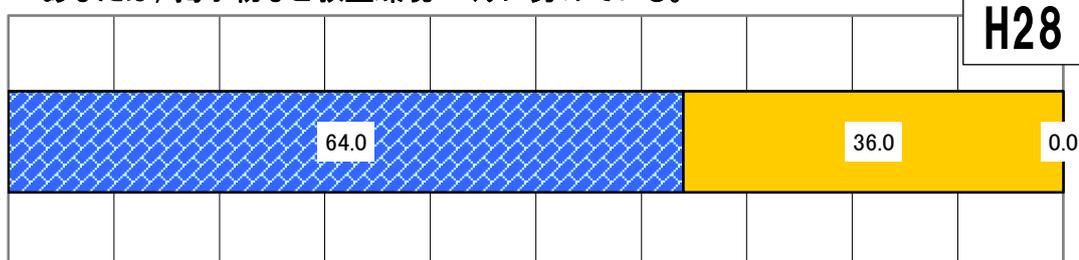
学校の特色に関する8問全てで肯定的評価（A・B）100%であった。このことから、特色ある教育活動について教職員は努力していると言えるが、昨年度と比べるとA評価の数値が全体的に下がっている。

達成
状況

VI-5 あなたは、掲示物など教室環境づくりに努めている。



VI-4 あなたは、掲示物など教室環境づくりに努めている。



3 まとめ

<成 果>

教職員の4分の1が新メンバーという新体制でスタートした平成28年度だったが、教職員自己評価では、どの項目も肯定的評価が高く、全体的に達成できている。全教職員が学校教育目標達成に向かい、校長の教育方針の下に共通理解をして教育活動にあたっていることが確認できた。

<課 題>

保護者アンケート、児童アンケートでは、全体としての水準は昨年度から大きく変化していないものの、児童アンケートでD回答をする児童が、質問によっては増えていることがわかった。

教職員が日々の教育活動の様子を家庭・地域により発信していくこと、また家庭・地域の協力を今まで以上に取り入れ、家庭・地域・学校の連携をより深めた教育活動を展開していくことが求められている。同時に、D回答をしている児童への個別支援を充実させていくことも必要である。学校の組織力を効果的に活用して、これからの教育活動に取り組みたい。